

第57回近畿肢体不自由児者福祉大会 兵庫大会に参加

この福祉大会は、肢体不自由児者父母の会の近畿ブロックの福祉大会です。今回は、兵庫県姫路市で開催されました。近畿各県の父母の会の皆さんが参加されていました。

近畿の肢体不自由児者父母の会の成り立ちは色々ですが、多くの団体が昭和30年前後に結成され、現在も活動を続けておられます。

昭和23年に高木憲次先生によって、任意団体の日本肢体不自由児協会が設立されると、全国にそのような団体を設立しようという機運が高まり、都道府県に肢体不自由児協会や市町村にも父母の会が結成されていきます。

大阪府では、昭和28年に堺市と大阪市を皮きりに父母の会が結成され、その後次々と他の市区町村でも結成されていきます。大阪府の父母の会連合会は、昭和39年に結成されます。我々の協会も昭和30年に設立されますが、父母の会の皆さんの活動を原動力にしていたことが分かります。

第1回目の近畿肢体不自由児者福祉大会が開催されたのは、昭和40年です。今回57回目を数えることになりました。「継続は、力なり」と言いますが、続けることの大切さを感じています。

大会では、「ノーリフティングケア」についてノーリフト協会代表理事の保田淳子氏の講演がありました。自ら体験されたオーストラリアの医療・介護現場や街の様子が紹介されました。元々は、働く人の腰痛予防からスタートしたノーリフティングケアでしたが、職員の健康維持だけでなく、利用者の安心・姿勢の維持、お互いの良好なコミュニケーションにつながっているとのことでした。

講演の中で、オーストラリアの街の様子が紹介されました。「街中の車いすのまま乗れるブランコ」や「リフト設備のあるプール」「車いすのまま乗れるトリム」などが紹介されていました。

保田さんからは、「車いすの方と一緒に旅行しても困らない街」があり、「何がしたいか？」を聞いて、それを叶えようとする姿勢があるからこそ、今の街の姿があるとのことでした。

昼食後には、リフトの体験もできました。

午後からは、阪神尼崎駅に隣接する商業施設「アマゴッタ」の中にできた兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター通称あまりハの施設紹介と設立までのお話がありました。要望が社会資源として実現できた背景には、行政側の熱意や努力があったことが実感できました。

